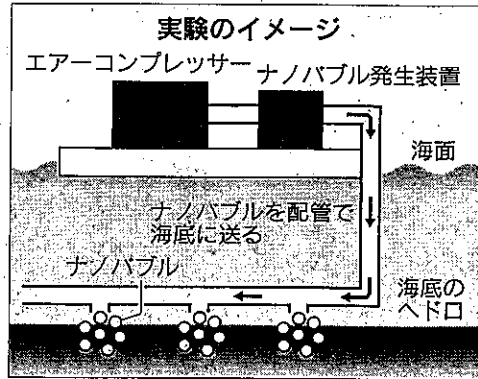


微細気泡で水質浄化

微生物活性化 海底ヘドロ分解

配管工事の安斉管鉄(横浜市)は3月、横浜八景島(同)などと組み「横浜・八景島シーパラダイス」(同)で水質浄化の実証実験を始める。「ナノバブル」と呼ばれる微細な気泡を使って微生物を活性化させ、海底のヘドロを分解する。実験データを分析し、海洋浄化の効果を確認したうえで、システムなどを全国の自治体などに売り込む考えだ。

全国の自治体に売り込み



実験は八景島シーパラダイスに3月に開業する。海中観覧船や釣り堀などを備えた新施設「うみファーム」内で実施する。通常、水中の気泡は水面へ上へと逃げてしまいが、ナノバブルは漂うことができ、この性質を利用して海底のヘドロ内部に酸素を供給し、微生物に有機物を分解させる。メタ

海中観覧船や釣り堀などを備えた新施設「うみファーム」内で実施する。通常、水中の気泡は水面へ上へと逃げてしまいが、ナノバブルは漂うことができ、この性質を利用して海底のヘドロ内部に酸素を供給し、微生物に有機物を分解させる。メタ

海中観覧船や釣り堀などを備えた新施設「うみファーム」内で実施する。通常、水中の気泡は水面へ上へと逃げてしまいが、ナノバブルは漂うことができ、この性質を利用して海底のヘドロ内部に酸素を供給し、微生物に有機物を分解させる。メタ

ンや硫化水素などの発生を防ぎ、海洋生物が生息しやすい環境を整える。ナノバブルの発生装置は安斉管鉄が開発し、建設コンサルタントの八千代エンジニアリング(東京・新宿)が実験結果の分析を担当する。海底の100平方メートルのヘドロ部分などにナノバブルを送り込み、ヘドロに含まれる微生物の数、メタンや硫化水素の量の変化を検証する。

ンや硫化水素などの発生を防ぎ、海洋生物が生息しやすい環境を整える。ナノバブルの発生装置は安斉管鉄が開発し、建設コンサルタントの八千代エンジニアリング(東京・新宿)が実験結果の分析を担当する。海底の100平方メートルのヘドロ部分などにナノバブルを送り込み、ヘドロに含まれる微生物の数、メタンや硫化水素の量の変化を検証する。

ンや硫化水素などの発生を防ぎ、海洋生物が生息しやすい環境を整える。ナノバブルの発生装置は安斉管鉄が開発し、建設コンサルタントの八千代エンジニアリング(東京・新宿)が実験結果の分析を担当する。海底の100平方メートルのヘドロ部分などにナノバブルを送り込み、ヘドロに含まれる微生物の数、メタンや硫化水素の量の変化を検証する。

浄化の取り組み広が

同実験の年間の電気料金は最大45万円で、従来方法に比べて電力コストを2割程度に抑えられそうだという。横浜八景島の布留川信行社長は「ランニングコストが抑

制できるため、事業性と社会貢献を両立できる」とみる。
2月に装置の設置工事を開始し、3月5日14年1月末の実験データを分析する。事業費は約1000万円、0万円で、安斎聡取締役は「後には全国の要を開拓し、川の水質浄化」と話す。

微生物で工場排水

▲味の素 ▼川崎市

炭素繊維使い効果

水質浄化の取り組みは他にも広がっている。味の素は主力の川崎工場(川崎市)に約33億円を投じ、微生物を使った排水処理設備を導入した。プラント内の大量発生原因となる排水中の窒素成分の濃度を従来の10分の1に減らした。川崎市はNPO法人と共同で炭素繊維を使った釣り池の浄化実験に取り組んだ。

味の素は調味料やアミノ酸製品を造る川崎工場。排水中の窒素成分の濃度を1日当たり4200ppm(ppmは100万分の1)の処理能力を持つ新たな排水浄化設備を稼働させ、浄化した水は

せた。大小8つの浄化槽と複数の微生物を使い、排水中の窒素成分の濃度を法規制の15分の1の4ppm(ppmは100万分の1)開かれた川崎術展にブース

多摩川に放出を分解した後料の原料に活用川崎市はNシャパン・ウガード(JW高崎市)と連水質浄化に取表面に微細な炭素繊維を使用質を除去するまで3年間の一定の効果(市環境総合いう。JWG術展にブース

子育て支援連携

横浜・青葉区とベネッセなど5社

週末に無料講座

横浜市青葉区はベネッセコーポレーションなど民間企業5社と子育て支援事業で連携する。東急FAMILYIE(同)の進める公民連携事業の一環として、ベネッセが主催する「子育て支援連携講座」を週末に無料で開催する。和光堂、キンダーナーサリー(東京・豊島)、ダッドウェイ(横浜市)、ニユーを用意し、参加費は原則無料とする。今回の取り組みは市が

がんばれ！NPO法人

NPO法人のごとく、もうウェブサイトも用意したと知って。神奈川県は県内でNPO法人数は増加傾向にあり、県民からの寄附のためのキャンペーン活動を付などの支援拡大につなげたいと考えた。

3月末まで実施する。小田急線や横浜市営地下鉄線など、NPOの活動を紹介するキャンペーン名は「かにかにやおの世にや押し太鼓判プロジェクト」

県がキャンペーン道に活動紹介広告

活動を見つけては太鼓判を押し、紹介するという企画。雑誌広告やポータル(玄関サイト)・交流サイト上でのバナー広告も展開する。このほど横浜市内で黒岩祐治知事らが参加するPRイベントを開いた。写真。県内に事業所を置くNPO法人数は昨年末時点で3

